

第 8 回（2016）海の日論文 表彰論文及び講評

第 8 回（2016 年）「海の日」懸賞論文 には、14 本の論文が寄せられました。日本海洋政策学会学術委員会による審査の結果、最優秀賞 1 編、優秀賞 2 編、佳作 1 編が選ばれ、表彰されました。

1) 最優秀賞

「ハイドロフォン搭載 Argo フロートを使用した全球的四次元海洋音響環境モニタリングシステム導入の提言」

平井 由季乃さん（東京海洋大学大学院海洋システム工学専攻）

2) 優秀賞

「海洋生物の行動と水中音波通信を応用したリアルタイムな海洋環境調査」

富安 信さん（北海道大学大学院生物圏科学専攻）

「海色モニタリングによる青潮、赤潮の環境動態の把握と予測モデルの高精度化」

服部 啓太さん（横浜国立大学大学院都市地域社会専攻）

3) 佳 作

「知床・対馬の事例から学ぶ日本における海洋保護区の在り方」

熊坂 愛花さん（横浜市立大学国際総合科学部）

* 上記 4 作品は、学会 NewsLettter No 4 に掲載される予定です。

講 評

「新たな海洋立国の実現」に資する論文を募集する「海の日」懸賞論文も今年で八回目を迎えた。本年は新たに教育新聞社も参加し、高校生を対象とした作文の応募も行ったが残念ながら応募者がなかった。来年の応募に期待したい。本企画は、多様な分野から海洋政策に関する自由なアイデア、意見、提言を得ることを目指している。募集に応じた一四編の論文はまさしくその狙い通りに、

海洋の安全保障、海洋環境調査、海洋保護区、海洋資源開発システムなど多岐にわたり、若い人における海洋政策に関する関心の高さと広がりを示す内容になっている。

応募論文の審査は、例年通り、予備審査および本審査の二段階で行われた。所属、氏名を伏せた厳正な選考を経て、最終的には、Argo フロートにハイドロフォンを搭載し、海洋音響モニタリングを国際協力で実現しようとする先進的提言を行った平井由季乃氏の「ハイドロフォン搭載 Argo フロートを使用した全球的四次元海洋音響環境モニタリングシステム導入の提言」を最優秀賞に、海洋環境調査を低コストで実現するためにバイオリギング技術を利用しようとする富安信氏の「海洋生物の行動と水中音波通信を応用したリアルタイムな海洋環境調査」と、衛星情報の補完として地上からの定点モニタリング導入を提案する服部啓太氏の「海色モニタリングによる青潮、赤潮の環境動態の把握と予測モデルの高精度化」の二編を優秀賞とした。さらに本年は、学部生ながら日本における海洋保護区の議論をよく整理・分析した熊坂愛花氏の「知床・対馬の事例から学ぶ日本における海洋保護区の在り方」を佳作に選出した。選にもれたいずれの論文も日本の海洋政策にとって重要な課題を扱っており、きわめて質が高いとの印象をもった。惜しむらくは、一般論から踏み込めていない提案が散見されたことである。

海洋立国をめざす日本は、海洋政策に関する多くの課題を抱えている。来年も、本年同様、多くの人に応募することを期待したい。

（日本海洋政策学会学術委員長・同志社大学教授 坂元 茂樹）